

第 1 回 刈谷市公営企業経営戦略等策定委員会 議事録

1 日 時

令和 4 年 5 月 17 日（火）午後 1 時 30 分～3 時 30 分

2 場 所

刈谷市役所 1 階 101 会議室

3 出席委員 8 名

委 員 長：齊藤由里恵

委員長職務代理：井上隆信

委 員：丸地弘泰、岩井佑樹、作田美乃利、齊藤康子、佐藤英一郎、
村口文希

4 欠席委員 1 名

委 員：岡田行永

5 事務局

水資源部長：水野秀彦

下水道課：高須課長、石黒課長補佐兼維持係長、西尾業務係長、稲垣計画係長
牧野主任主査、山崎主査

6 傍聴者

なし

7 公開・非公開の別

公開

8 議題

- (1) 刈谷市下水道ビジョンについて
- (2) 刈谷市下水道事業経営戦略について
- (3) その他

質疑等

《議題（１）刈谷市下水道ビジョンについて》

【委員】

18 ページの有収水量の推計について、2022 年から 2027 年で有収水量がかなり増えているが、何か理由があるのか。

【事務局】

大規模事業場の下水道接続について検討しており、工場排水は受け入れませんが、従業員の生活排水は受け入れることができるため、それによって有収水量が大きく増加すると見込んでいます。

【委員】

有収水量の総量が大きく増加しているのに一人当たり有収水量が減少しているのは何故か。一人当たり有収水量の算定方法について定義がされていないが、総量を接続人口で割ったような単純な計算ではないのか。

【事務局】

大規模事業場の接続による有収水量の増加分は接続人口としては 0 人となるため、一人当たり有収水量には影響がないようにしています。誤解のないように表記の方法を工夫させていただきます。

【委員】

5 ページの下水道接続人口のグラフについて集計方法の見直しとあるが、どのような見直しを行ったのか。

【事務局】

以前は接続人口を算出するための正確な情報がなかったため、工事の申請件数に平均世帯人数を掛けたものを積み上げる方法で推計しておりました。令和元年度以降は市内 GIS システムを利用して接続している家庭の住民人口を直接集計できるようになったため、より精度の高い方法で集計しています。

【委員】

変更前の集計方法でやっていた頃の数字は、実際よりも過少な推計となっていたという事か。

【事務局】

そのとおりです。

【委員】

下水道普及率については平均を大きく上回っていると説明されているが、下水道接続率は他と比べて低いのはどういった理由があるのか。

【事務局】

過去から整備している市街化区域の接続率は比較的高いですが、近年に整備した調整区域については接続率が低く、それに引っ張られている傾向があると把握しています。

【委員】

グラフで比較されている類似団体というのは具体的にどういった団体か。

【事務局】

用語集に記載しておりますが、全国の地方公共団体のうち、人口や人口密度、供用開始後の年数が類似する団体で総務省が指定する団体になります。

【委員長】

可能であれば用語集に載っている語句が最初に出てきたときには太字にするなどして、分かりやすくなるよう工夫していただきたい。

【事務局】

対応させていただきます。

【委員】

17 ページの広報活動について、アンケート結果によればホームページや市民だよりで下水道に関する情報を見たことがない人が7割という結果が出ている。これについて、広報誌に載せる回数が少ないから情報が届いていないのか、それとも興味がないから読んでもらえていないのか、現状をどのように捉えているのか。

【事務局】

下水道は地下に埋設されている施設のため、市民にあまり意識されていないと考えています。外に見えるようなものはマンホール蓋くらいで、刈谷市には処理場もないため、処理場を使ったPRもありません。そのため、まずは興味を持ってもらうことが大事であると考えています。ホームページや広報誌だけでなく、わんさか祭りや出前講座なども積極的に活用することを考えており、下水道に意識を向けていただければと思っています。また、全国的にマンホール蓋を利用したPRが盛んになっており、刈谷市でもマンホールカードを作成していますので、まずは興味を持っていただくところから始められたらと思います。

【委員】

23 ページの管理指標について、汚水処理人口普及率や下水道接続率の目標は今後の整備を進めていけば企業努力で達成できそうな現実的な値に見えるが、経費回収率の90%は現状から9%程度も増加しており、下水道使用料改定まで踏み込んで設定した目標なのか。

【事務局】

90%の目標は下水道使用料の改定は行わずに大規模事業場の接続による収入の増加や経費削減で達成可能な目標として設定しています。

【委員】

20 ページの浸水対策の推進にある雨水貯留浸透施設の設置補助の拡充について、施設の設置を広めていくという観点から、一定額までではなく全額補助にできないか。

【事務局】

流域治水という点で考えると、行政は行政でできることを行い、市民の方もそれぞれでできることに取り組んでいただき、その参加を促すためという趣旨から一部補助となっています。

【委員長】

26、27 ページのコラムで紹介されている分流式・合流式や汚水処理の種類について、刈谷市ではどの方式なのかの記載があった方がよいのではないか。

【事務局】

対応させていただきます。

【委員】

34 ページのアンケート問9について、回答者の母数はどうなっているのか。問8で見たことがないと回答した人が母数に含まれていないか。それによって満足でないと回答した割合が高いことの重要度が変わってくるのではないか。

【事務局】

確認して分かるようにいたします。

【委員長】

経費回収率の目標値90%について理由の記載がないのが気にかかる。独立採算制と書いてありながら目標が90%というのは、捉え方を読み手側に判断させてしまうので不親切ではないか。

【事務局】

目標設定の理由の記載について検討いたします。

《議題（２）刈谷市下水道事業経営戦略について》

【委員】

23 ページの使用料単価について、比率が高いほど偏差値も高いとなっているが、使用料単価が高いということは徴収する費用が高いということなので、それは良いことと捉えてよいのか。

【事務局】

経営にとっては良いことですが、市民目線からでは逆になります。

【委員】

使用料単価は指標として適切なのか。市民目線だと違和感を覚える。

【事務局】

総務省が提示している指標の一つとなっているため、記載しています。

【委員】

30 ページの主な投資計画について、令和 9 年以降の汚水整備について色が変わっているが、令和 9 年以降の計画は実施したいということでの計画になっているのか。

【事務局】

現在のシミュレーションでは令和 9 年以降の整備は含めていません。今後の整備についてはこれから検討していきます。

【委員】

33 ページからの収支見通しにもそれは含まれていないのか。そのことについて、どこかに明記されているか。

【事務局】

収支見通しにも含まれていません。記載については考えさせていただきます。

【委員】

費用が 20 億円～となっているが、今後の見通しの中で実際にいくら見込んだのか不明瞭であるので、わかるような資料にしていきたい。

【事務局】

対応させていただきます。

【委員】

34 ページの他会計繰入金について、収入が不足する分を基準外繰入金で全額補填することになっているが、それだと繰入に対する歯止めがないように思うがどうか。

例えば、企業債償還額や減価償却費の何割かなどの基準は設けていないのか。

【事務局】

特に基準は設けていませんが、財務課からいくらまでとの指示はあります。

【委員】

資本的収支については公共事業としての意味合いで繰入れが必要なのは理解できるが、収益的収支の毎年の運営に関する部分についても繰り入れているとなると、理解を得るのが難しいのではないか。例えば処理費用が使用料収入よりも多いなら使用料改定で対応すべき部分なのではないか。

【委員長】

計画上では基準外繰入金が今後も入ってくる形で想定されているが、繰入に関する基準がないのであれば、計画どおりに入ってくる保証もないので心配にならないか。どのような書き方が良いかは分からないが、毎年折衝しているなど一言加えた方がよいのではないか。

【委員】

一般的に下水道事業は慢性的な資金不足のため、他団体では基準外繰入金についても、市の運用ルールとして明記しているところもある。具体的に書くのは難しいかもしれないが、何かしら追加の説明が記載できると良いのではないか。

【事務局】

記載について検討させていただきます。

【委員】

40 ページの収支見通しについて、経費回収率のグラフは使用料の改定を見込んだものなのか。

【事務局】

ここでは使用料改定を見込んでおらず、現在の使用料のまま算定しています。

【委員】

7 ページの職員年齢構成について、以前の会議で説明されていた技術継承に関する問題が提起されていたので、定年後の再雇用職員を通じて問題に取り組んだらどうか。

【事務局】

検討させていただきます。

【委員】

5 ページの組織の概要について、ここだけ雨水の項目を記載していないのに違和感を覚える。雨水職員の内容も記載してはどうか。

【事務局】

書き方について検討させていただきます。

【委員】

33 ページの収益的収支のグラフだけを見ると、赤字補填のための繰り入れが含まれていて収支均衡しているため、一見して問題が伝わってこない。会計に明るくない一般の方が見たときにも分かりやすくしていただきたい。

【事務局】

表示方法について検討させていただきます。

【委員】

資料から市民としてどのような協力ができるのか分からない。どのような PR で、何を訴えて、何を返してほしいのか、具体的なメッセージが伝わってこない。刈谷市の上水道、下水道は安いというイメージの先に進んでおらず、なぜ安いのか、いつまで安いままでいられるのか、いつ・なぜ高くなるのかといった段階が想像できる資料になると具体性が出るのではないか。

【委員長】

先ほどあった収益的収支の話にもつながるが、経営的に難しい状況でも経営できているのは繰入金があるからということ伝えるのが最初のステップとして重要であると思う。その上で何をメッセージとして市民の方に伝えていくのか、この 10 年間で何を目指していくのかを分かりやすくしても良いのではないか。

【事務局】

検討させていただきます。

【委員】

4 ページの使用料収入のグラフについて、H28 の収入が落ち込んでいる理由は企業会計移行に伴って 1～2 ヶ月分の使用料収入が反映されていないからだと思うが、その理由を記載するか、収入を反映させたグラフにしたほうが良いのではないか。

【事務局】

修正させていただきます。

【委員】

11 ページ以降の個別の指標を比較している部分について、西三河平均が他の平均に比べて大きく差があることが多い。同じような地理的条件の刈谷市と比べても差があるのは何か要因があるのか。

【事務局】

西三河は刈谷市と比較して新しく整備された地域が多いので、その影響が出ていると思われまます。

【委員】

19 ページの流動比率について、刈谷市は極端に低いですが、何か要因があるのか。同じように 22 ページの汚水処理原価もかなり低いですが、何か要因はあるのか。

【事務局】

流動比率については調査します。汚水処理原価については、他市に比べ長期前受金戻入の比率が多いことが影響していますが、何故そうなっているかは調査中です。

【委員】

42 ページの計画の進捗管理について、計画の中間期に検証を行うとあるが、ビジョンの方では次回のビジョンで反映するとしている。それぞれ計画の目的があるので一緒の時期にする必要はないと思うが、ビジョンの方でも途中段階での見直しはあるのか。

【事務局】

状況が大きく変わった場合にはビジョンの方でも中間期の見直しを行います。

【委員長】

皆さんから出た意見を総合すると、やはりメッセージをどう出していくかという点で、資料の一見での分かりやすさや、他市との比較で差がある理由などが分かれば記載した方が良いのではないかと思う。

【事務局】

検討させていただきます。

《議題（3）その他について》

今後のスケジュールについて説明し、7月に書面開催、9月の予備日にも委員会を開催することとした。

以上